

キャンディ・キャンディ博物館開館宣言

漫画「キャンディ・キャンディ」は、講談社発行の「なかよし」誌で、1975年4月から1979年3月までの4年間、水木杏子原作、いがらしゆみこ作画で連載された漫画作品です。好評を得ると、1976から2年半、テレビ朝日によってアニメ化されました。放送されると、キャラクター・グッズが多数発売され、何でもかんでもキャンディといわれ、当時の社会現象ともなりました。作品は同時に、世界各国で現地語に翻訳され出版され、テレビ放映されました。

世界に進出した日本の漫画のさきがけとなり、世界の人々を感動させました。世界各国で、今尚少女マンガの古典としてしっかり根付いています。作品は「漫画」と「アニメ」で発表され、その後「小説キャンディ・キャンディ」が発表され、三つの媒体で構成されています。

作品に流れる人類愛、生物愛、友情、貧乏、家族、苛め、思いやり、戦争、恋愛、人の生き死等々。子供が人が成長していく上で必要な栄養素が豊富に込められ、それは今だからこそ必要なものです。作品は古くなるどころか、なお輝を増しています。しかし、不幸にして原作者と漫画家との間のいわゆる「著作権裁判」を経て、現在作品は「絶版」「廃版」状態にあり、読者の手から取り上げられ、読む事も困難な状況になっていきます。

しかし、それらは「作り手側の事情」であり、読者にとっては無縁のことなのです。作り手の間に諍いはあっても、「読者と原作者」「読者と作家」の間には何ら諍いは無いのです。

まして、正・否のジャッジを読者に求めてはならないのです。私達は、どちらの側に正否を可し、組する事はありません。作り手側で早期に問題を解決し、作品が再び読者の許に返され、世界の舞台で輝く事を願っています。

漫画は文化です。作者と読者があつての文化です。「作り手側の事情」で読者から作品を奪う事は、漫画文化を滅ぼす事であり、あつてはならない事だと思えます。作品の復活・保存を願う「コレクション展」を皆様の御好意で各地で、大小16回開催してきました。

来場する人々は「ああ、これで遊んだ!」「私はテリイ派だった」等々、初対面の人と、いつの間にか熱く語りあっている姿を多々見て来ました。キャンディ・キャンディを読み育った人々は成人となり、また親となり「キャンディ・キャンディの精神」は受け継がれています。

作品を知らない若い世代でも、アニメソングで主題歌は知っており、作品の復活を望んでいることを知りました。多くの人の心の中に、今なお、キャンディ・キャンディの明りは灯っています。

この作品の現状を知って戴き、皆様の心中に留めて戴き、機会があれば「キャンディ・キャンディ」を、思い出してください。お知り合いと語って戴きたいと思えます。読者の立場で、復活を望み、微力ながら、声出しの活動を行っています。世界各国の業界・関係者・読者等々に、復活・保存を働き掛けて参ります。

本日、柴又の地にて、キャンディ・キャンディ博物館の開館を宣言します。

2017年12月1日

キャンディ・キャンディ保存会 代表 キャンディ・葉月・ミルキイ